

お知らせ

平成31年3月1日（金）
一般社団法人 日本蕎麦協会

平成30年度 全国そば優良生産者、農林水産大臣賞

ほかの受賞者、集団の決定について

一般社団法人日本蕎麦協会主催の「平成30年度全国そば優良生産表彰事業」による農林水産大臣賞ほか各賞を、下記のとおり決定いたしました。

なお、各賞の授与（表彰式）は、下記の通り実施いたします。

記

1 受賞者

別紙のとおり

2 各賞の授与（表彰式）

（1）日 時：平成31年3月22日（金） 午後2時

（2）場 所：如水会館 2階 ペガサス
千代田区一ツ橋2-1-1
電話 03-3261-1101（代表）

(参考) 全国そば優良生産表彰事業の概要

目的：国産そばの生産を奨励し、消費者へ良質なそばを安定的に提供するため、低コスト・品質向上などの面で模範となる生産農家及び生産集団を表彰し、その成果を広く紹介・普及する（平成元年度から実施、今回で30回目）。

成果：これまで、品質・生産性向上に努力した生産農家及び生産集団が受賞し、6次産業化、ブランド化の成功にもつながったほか、地域のそば振興のモデルとなっている。

農林水産大臣賞の受賞者の特色：収量性・作付面積はもとより、実需のニーズにあった高品質なそばの生産、「クラウド型農業管理システム」の導入等、先駆的な農業技術の導入が評価された。

主催：一般社団法人 日本蕎麦協会

後援：農林水産省、全国農業協同組合中央会、日本農業新聞

協賛：一般社団法人 日本麺類業団体連合会、全国蕎麦製粉協同組合、全国農業協同組合中央会、玄蕎麦流通協議会

お問い合わせ先

一般社団法人 日本蕎麦協会

電話 03-3264-3801

FAX 03-3264-3802

メール info@nihon-soba-kyokai.or.jp

URL <http://www.nihon-soba-kyokai.or.jp>

(別紙) 平成30年度全国そば優良生産表彰受賞者一覧

平成31年2月19日 審査委員会決定

表彰の種類	受賞者名	所在地
農林水産大臣賞	株式会社 ^{ひかり} 光ファーム 代表取締役 ^{しのつか} 篠塚 ^{こういち} 光一	茨城県境町
農林水産省政策統括官賞	^{つかだ} 塚田 ^{あつし} 厚	長野県長野市
全国農業協同組合中央会会長賞	^{ふちゅうだいいち} 府中第一農業生産組合	福井県小浜市
	J Aなんすん そば部会	静岡県裾野市
一般社団法人 日本麺類業団体連合会会長賞	^{かきざき} 柿崎 ^{まさとし} 正敏	山形県大蔵村
	^{さいとう} 齋藤 ^{やすひこ} 保彦	群馬県みどり市
全国蕎麦製粉協同組合理事長賞	^{おかざき} 岡崎 ^{たけし} 武	茨城県常陸太田市
	株式会社ファーム ^{こうりんぼう} 高林坊	栃木県那須塩原市
一般社団法人 日本蕎麦協会会長賞	^{よしざわ} 吉澤 ^{ひょうえ} 兵衛	埼玉県白岡市
	農事組合法人ゆふいん ^{そばのうじょう} 蕎麦農場	大分県由布市
一般社団法人 日本蕎麦協会奨励賞	農事組合法人ふる ^{さとみょうこう} 里妙高	新潟県妙高市

農林水産大臣賞

氏名・集団名	株式会社 ^{ひかり} 光ファーム 代表取締役 ^{しのつか こういち} 篠塚 光一
所在地	茨城県猿島郡境町
立地・生育条件	境町は茨城県の県西部に位置し、年平均気温15.8℃、年間降水量898mmで、ほ場が位置する境町・古河市はそば栽培が盛んな地域である。台風の影響を受けた。
年産	平成30年産
品種・単収・品質	常陸秋そば(110kg/10a・1等)
そば作付面積	39.8ha 〈田5.0ha・畑34.8ha〉
収穫量	43,920kg
労働時間	1.87時間/10a
生産費	8,743円/10a
機械化の現状	ブロードキャスター、ライムソワー、スタプルカルチ、ロータリー、ハイクリブーム、汎用コンバイン
作付体系	田:小麦～そば～水稲～小麦(2年3作)、畑:大麦～そば～大麦
経営上の割合等	玄そば販売(30%) 平均15,400円/45kg
出荷状況	地元製粉業者(70%)、県外そば店・個人(30%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・実需からの要望である「青みのあるそば」のニーズに応えるため、早期播種・早期収穫を実施。早期播種によりまき直しも可能であり、リスク低減にもつながっている。 ・倒伏対策として、草丈が伸びた頃に人力ではほ場周縁のそばを起こしたてている。 ・鶏糞堆肥および土壌改良剤等の施用により地力増進を進めている。 ・病害虫の防除の際はGPS付ハイクリブームの使用で薬剤の重複散布を防止している。 ・購入種子を採種用として播種し、翌年の種子として使用している。 ・地元製粉会社・そば店、個人客に直接販売して地産地消に取り組む他、県外のそば店にも販路を拡大している。今後はさらに販路を拡大し、作付を拡大したいと考えている。 ・そばと米はJGAPおよび茨城県GAPの認証取得に向けて手続き中であり、食の安全や環境保全に取り組む他、クラウド型農業管理システム(KSAS)を導入し、農地や作業履歴の管理に活用している。これにより年次データの比較が容易にできるようになった。 ・「平成30年度茨城県そば共進会」最優秀賞受賞。

農林水産省政策統括官賞

氏名・集団名	^{つか だ あつし} 塚 田 厚
所在地	長野県長野市戸隠
立地・生育条件	戸隠は長野県北部・長野市北西部に位置し、年平均気温7℃、気温の日較差が大きく霧が出やすい。大部分が標高1,000m以上で火山灰度である。台風による影響を受けた
年産	平成30年
品種・単収・品質	キタワセソバ(94kg/10a・1、2等)
そば作付面積	32.0ha 〈田0.8ha・畑31.2ha〉
収穫量	29,772kg
労働時間	3.00時間/10a
生産費	31,762円/10a
機械化の現状	トラクター、播種機、コンバイン
作付体系	そば単作(二期作)
経営上の割合等	玄そば販売(85%) 平均18,610円/45kg
出荷状況	市内製粉業者(85%)、市内そば店(15%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・地力維持のため地元きのこ生産者からきのこ廃培地を調達し、発酵鶏糞とともにほ場に投入している。これにより土壌を軟らかくし、通気性・排水性を高めている。 ・施肥量の調整による倒伏対策や、山間地による傾斜があるものの20cmの耕起深度による表土の流出対策などを実施している。 ・新たな取り組みとして、地元養蜂業者と連携し、無償で蜂箱60箱を設置した。その影響もあり、夏そばの単収は120kg/10aと昨年比で15～20%の大幅増となった。 ・年一作では自然災害による危険性もあるので、二期作を行って収量の安定化を図っている。以前は自家採種だったが、種子更新を毎年行い品質向上に努めている。 ・需要者の「ほんのり緑がかかった色」という希望により、黒化率70%で収穫している。 ・機械化によるコスト削減、ニーズに合った商品の栽培による契約栽培の件数増加、ICTによる経営管理などにより安定的な経営を図っている。 ・イタリアでのPRや地元と連携した地域づくり活動にも積極的に参加している。

全国農業協同組合中央会会長賞

氏名・集団名	ふちゅうだいいち 府中第一農業生産組合 (組合長 <small>ひがしの まさひろ</small> 東野 正博) 構成農家戸数=27戸
所在地	福井県小浜市
立地・生育条件	小浜市は福井県南西部に位置し、市の80%が森林である。年平均気温14.4℃、積雪期間は短いものの、豪雪地帯に指定されている。近年は集中的な降雨による影響がある。
年産	平成29年
品種・単収・品質	大野在来(45kg/10a・1等)
そば作付面積	3.1ha (田3.1ha)
収穫量	1,418kg
労働時間	2.32時間/10a
生産費	41,115円/10a
機械化の現状	トラクター、コンバインハーベスター
作付体系	大麦～そば
経営上の割合等	玄そば販売 平均13,000円/45kg
出荷状況	JA若狭(100%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・排水のきく水田ではあるが、周囲にも溝を掘りより排水性を高めている。 ・肥料については前作の麦わらをすき込み、有機質肥料をして活用し、播種については条播きで行い、倒伏に強い丈夫な茎を作るように務めている。 ・高温時に開花すると受粉率が低下するため、播種時期にも気を付けている。 ・そばの品種については多収量で品質・香りの良い在来品種を選んでおり、黒化率70%位で収穫を行っている。 ・県下の栽培情報も取り入れて品質向上に努めている。 ・収穫したそばは全量JA若狭での出荷で対応しているため、栽培に力を入れ、良質・多収量を目標に取り組んでいる。 ・転作による大麦後のほ場の有効利用、ほ場の雑草発生の防止のためそばを導入した。

全国農業協同組合中央会会長賞

氏名・集団名	JAなんすん そば部会 (部会長 <small>てづな ふみよし</small> 手綱 史芳) 構成農家戸数=17戸
所在地	静岡県裾野市
立地・生育条件	裾野市は静岡県東部地域に位置し、標高は150～500m。土壌は黒ボク土で排水良好だが、ほ場により異なる。年平均気温15.5℃、年間降水量1,822mm。台風・獣害の影響があった。
年産	平成29年
品種・単収・品質	信濃1号(54kg/10a・1等)
そば作付面積	15.6ha (田2.6ha・畑13.0ha)
収穫量	8,392kg
労働時間	7.00時間/10a
生産費	19,140円/10a
機械化の現状	トラクター、播種機、汎用コンバイン
作付体系	そば単作
経営上の割合等	玄そば販売(100%) 平均14,400円/45kg
出荷状況	JAなんすん(100%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・耕運は土壌の団粒を作るよう丁寧に行うとともに、雑草が多いほ場は収穫後も実施。 ・プラウ等により排水性を確保するとともに、手作業で石や岩を除去している。 ・播種・施肥を同時に実施し、十分な施肥を行うことで樹勢の維持が継続し、途中の肥料切れが起きないように務めている。 ・標高・ほ場に応じて適期収穫を推進しており、調整においては唐箕を使用してより丁寧に選別を行っている。 ・機械や県の補助金を活用して整備した加工工場は、農協保有のものを使うことでコスト低減を図っている。播種・収穫をずらして栽培することにより作業の分散化・機械の効率的利用が可能となっている。 ・生産したそばはJAなんすんと全量出荷契約しているため、売れ残りのリスクはない。また、「あしたか山麓裾野そば」として販売され、大部分はJA直営のそば店(五竜庵)で提供され。イベント等も含めて地域の観光資源にもなっている。

一般社団法人日本麺類業団体連合会会長賞

氏名・集団名	かき ぎき まさ とし 柿 崎 正 敏
所在地	山形県最上郡大蔵村
立地・生育条件	大蔵村は山形県北部の最上地域に位置し、年平均気温9℃、年間降水量2,000mm以上、標高100～400mである。ほ場は以前牧草地だった場所で、豪雨による生育不良・結実低下が見られた。
年産	平成30年
品種・単収・品質	最上早生(52kg/10a・1等)
そば作付面積	23.8ha 〈田1.2ha・畑22.6ha〉
収穫量	12,308kg
労働時間	2.67時間/10a
生産費	25,232円/10a
機械化の現状	バックホー、トラクター、ライムソワー、ロータリー、そば用コンバイン
作付体系	そば単作
経営上の割合等	玄そば販売(100%) 平均14,850円/45kg
出荷状況	地元そば店等(100%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫後に耕起作業を行い、残渣のすき込みによる腐熟促進と土壌の膨軟化を実施。 ・土地の傾斜を活かしながら明渠施工徹底することで、排水性を高めている。 ・生育の均等化・倒伏防止のため条播し、早期播種・早期収穫により脱粒防止を図る。 ・肥料としてペレット鶏糞燃焼灰を活用。地力維持のため連年施用している。 ・黒化率75%程度で収穫し、通風・低温による二段階の乾燥作業により、風味を損なわないように注意している。 ・玄そばは、地元の農事組合法人と連携し、主に県内のそば店に出荷することで、売り先と顔の見える関係で信頼を築いている。 ・化成肥料・農薬を使わず、国際水準GAPにも取り組んでいるため、環境保全型農業直接支払交付金の対象にもなっている。 ・栽培開始当初は1.2haであったが、遊休牧草地や山林原野の利用が任されるようになり、現在は23.8haまで栽培面積が拡大した。

一般社団法人日本麺類業団体連合会会長賞

氏名・集団名	いとう やす ひこ 斎 藤 保 彦
所在地	群馬県みどり市笠懸町
立地・生育条件	みどり市は群馬県東部に位置し、標高105mの平坦な地域。夏は高温多雨、冬は強い風が吹く。雷多く、落雷・突風・降雹等の被害を受ける場合がある。台風の影響を受けた。
年産	平成30年
品種・単収・品質	常陸秋そば(90kg/10a・未検査)
そば作付面積	3.2ha 〈畑3.2ha〉
収穫量	2,835kg
労働時間	5.17時間/10a
生産費	12,371円/10a
機械化の現状	トラクター、培土機、そば用コンバイン
作付体系	そば単作
経営上の割合等	そば粉販売(5%)、そば販売(95%) 平均2,400円/kg
出荷状況	外部に出荷せず
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場のある場所は多量の降雨がなければ排水対策は必要ないが、近年はゲリラ豪雨や台風の影響が心配されるため、心土破碎するなど排水対策を行っている。 ・耕作放棄地や遊休農地を利用した年一作の秋そば栽培のため、生育時期以外は雑草対策としてロータリー耕を7回実施して雑草をすき込み、緑肥として利用している。 ・ほ場に合う品種を選定するために様々な品種を栽培して比較を行ったところ、自ら加工販売することも考えて「常陸秋そば」を選定した。種子更新は毎年実施している。 ・外部には出荷せず、自ら栽培したそばを、製粉・製麺し、そば店「そば処 さいとう」で販売する6次産業化により安定した経営につなげている。 ・そば店の開業にあたっては、長野県や茨城県のそば産地でそば打ちを学んだ。 ・笠懸町のそば打ち親睦組織「そば和会」のリーダーとして、収穫後の新そばの提供や、ボランティアによるそばの提供を継続的に行っている。 ・耕作放棄地・遊休農地の利用促進にも貢献している。

全国蕎麦製粉協同組合理事長賞

氏名・集団名	おか ぎき たけし 岡 崎 武
所在地	茨城県常陸太田市赤土町
立地・生育条件	常陸大宮市は茨城県の北東部に位置し、年平均気温13.6℃、年間降水量1,371mm、褐色森林土の土壌で霧が多い。成熟期に台風の影響を受けた。
年産	平成30年
品種・単収・品質	常陸秋そば(41kg/10a・2等)
そば作付面積	3.8ha 〈田0.1ha・畑3.7ha〉
収穫量	1,584kg
労働時間	5.29時間/10a
生産費	38,653円/10a
機械化の現状	トラクター、溝掘機、播種同時施肥機、ブロードキャスター、ドリルシーダー、汎用コンバイン
作付体系	田: 水稻～水稻～そば、畑: そば(夏)～緑肥用ムギ(冬)・そば(夏)～ナタネ(冬)
経営上の割合等	玄そば販売(3%) 平均34,000円/45kg、種子そば販売(14%) 平均30,375円/45kg、種子そば栽培契約料(4%)
出荷状況	種子: JAひたち(100%)、玄そば: 県外そば店(100%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌に様々な性質があるため、粘質な土壌へもみがらを施用したり、土壌診断に基づく酸度矯正、傾斜地には緑肥ムギの作付による流出対策などを実施している。 ・地力維持・改善のために鶏糞ペレット堆肥・牛糞ペレット堆肥を施用している。 ・種子生産者のため、種子更新は100%行い、自家採種は行わないようにしている。 ・発芽率の確保とそばの品質向上を意識し、コンバインでは黒化率90%、手刈りでは黒化率80%での刈取りに留意し、乾燥は天日干しで10日間行っている。 ・地域では珍しい播種同時施肥機の使用により、機械化・省力化を図っている。 ・種子そばの契約栽培により、販売単価の安定と付加価値向上につなげている。 ・茨城の伝統食「つけけんちんそば」の具材を炒める油として地元では古くからナタネを栽培し、その油を使っていた。そばの栽培の後作としてナタネを栽培し、そばとともに地域の伝統食の継承に貢献している。 ・「平成30年度茨城県そば共進会」優秀賞受賞。

全国蕎麦製粉協同組合理事長賞

氏名・集団名	株式会社ファーム高林坊 (代表取締役 大田原 孝雄) 構成農家戸数=9戸
所在地	栃木県那須塩原市
立地・生育条件	那須塩原市は栃木県北部に位置し、標高200～400m、黒ボク土で排水は良好である。年平均気温12.5℃、年間降水量1,470mmで、台風・霜等の発生が生育に影響する。
年産	平成30年
品種・単収・品質	那須野秋そば(在来種、79kg/10a・1、2等)
そば作付面積	54.5ha 〈田24.3ha・畑30.2ha〉
収穫量	43,043kg
労働時間	3.67時間/10a
生産費	26,335円/10a
機械化の現状	トラクター、プラソイラー、ロータリー、ドリルシーダー、コンバイン
作付体系	そば・水稻・デントコーン・イタリアンライグラス(ネズミムギ)の組み合わせ栽培
経営上の割合等	玄そば販売 平均15,400円/45kg
出荷状況	自社販売(37%)、青木そば製粉(株)(42%)、秋山製麺(16%)、県内そば店(5%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・そばを作付する場合はすべてプラウ耕を行い、作土(25cm以上)の確保と耕盤の一部を壊すことにより浸透性を高める湿害対策を実施。また、土壌の上下が入れ替わることにより、地力維持と連作障害の回避につながっている。 ・数年前から「うなぎ登り栽培」(早期播種と元肥施用により開花前の茎の地際部分を倒伏させ、その後這い上がる生育法)を実施し、収量安定化を図っている。 ・種子栽培を別途行い、毎年種子更新を実施している。 ・機械化の推進により、収穫以外はオペレーター1名による機械化体系になっており、労働時間・コストの低減を図っている。 ・直営の農村レストラン他、製粉会社・製麺会社・そば店と契約栽培を行い、経営の安定化を図るとともに、地産地消にも貢献している。 ・生産量は増加傾向であり、そばの栽培により耕作放棄地は減少傾向にある。 ・今後は60haまで栽培面積を拡大するとともに、契約数量も拡大したいと考えている。

一般社団法人日本蕎麦協会会長賞

氏名・集団名	し ぎわ ひょう え 吉 澤 兵 衛
所在地	埼玉県白岡市
立地・生育条件	白岡市は埼玉県東部に位置し、夏は高温による虫害・降水量が多いと湿害が発生する。気温・日照の関係で60～65日程度で収穫する。台風による倒伏が見られた。
年産	平成30年
品種・単収・品質	春のいぶき(100kg/10a・未検査)、常陸秋そば(77kg/10a・未検査)
そば作付面積	春のいぶき0.4ha(畑0.4ha)、常陸秋そば1.3ha(畑1.3ha)
収穫量	400kg(春のいぶき)、1,000kg(常陸秋そば)
労働時間	55.33時間/10a
生産費	15,427円/10a
機械化の現状	トラクター、播種機、コンバイン
作付体系	そば単作、そば～二条大麦
経営上の割合等	そば粉販売(20%) 平均1,800円/kg
出荷状況	有しらか味彩センター(100%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・排水対策や元肥を抑えて追肥などを施用し、比較的収量が安定している夏そば(春のいぶき)を作付している(夏そばは毎年種子更新)。 ・温暖化を考慮し、秋そば(常陸秋そば)の播種時期を遅らせている。 ・秋そばと二条大麦の二期作を実施。 ・収穫時期の見定めを意識し、夏そばは65日、秋そばは60日程度で収穫している。 <p>収穫したものを製粉して出荷している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1995(平成7)年頃から、市内でも水稲用水田の転作を進める必要が出てきたことから、県に相談したところ、そばの作付について推薦がありそばの栽培が導入された。 ・白岡市転作作物研究会の会長という立場にあり、市の需要動向に即した農業生産の実施、生産栄の高い転作営農の実現に尽力している。 ・今後は、温暖化や台風被害など、天候や気象状況に配慮し、収穫時期を見極めることで、安定した生産を行べく努力したいと考えている。

一般社団法人日本蕎麦協会会長賞

氏名・集団名	農事組合法人ゆふいん蕎麦農場 (代表理事組合長 <small>はせがわ ただし</small> 長谷川 義) 構成農家戸数=3戸
所在地	大分県由布市
立地・生育条件	由布市は大分県の中央に位置し、標高700mで霧が発生する。気温は市街地より5℃ほど低く、台風・風の通り道になっているが、そばの栽培には適している地域といえる。
年産	平成29年
品種・単収・品質	在来種(60kg/10a・1等)
そば作付面積	12.8ha(田12.8ha)
収穫量	8,200kg
労働時間	4.70時間/10a
生産費	10,000円/10a
機械化の現状	トラクター、ユンボ、マニュアルスプレッダー、草刈機
作付体系	そば単作
経営上の割合等	そば粉販売(100%)
出荷状況	栲由布製麺(100%)
技術上の工夫 経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部を切り開いた土地のため、斜面が多く水はけは良い。 ・ゼロからそば栽培をスタートしたため、機械の導入を積極的に進めて近代化を図ってきた。 ・作業はほぼ1人で行っているが、将来的には高齢者雇用の受け入れも検討している。 ・有機肥料のみを使用し、NPO法人から認証を受けている。 ・自家製粉して出荷しているため、種を5種類に選別し、一番良いものだけを使用するようにしている。 ・年に1度収穫祭を行い、年末に年越しそばを地域の敬老会・福祉施設に贈呈している。 ・湯布院のすばらしい土地を活かして農業と観光の町にしたいと考えている。 ・収穫量の安定を図り、全国へのネット販売も検討している。また、次世代にそばの栽培をつなげるため、機械化の推進や飲食店の出店も行いたいと考えている。

一般社団法人 日本蕎麦協会会奨励賞

「一般社団法人 日本蕎麦協会奨励賞」は、2次審査において各賞の対象とならなかった候補者について、他の模範となる生産者として、今後の経営の発展を期待して贈呈することといたしました。奨励賞受賞者については、来年度以降、作付面積・収量・生産技術・経営・取り組みなどについて発展が見られた場合には再度表彰事業への応募が可能となります。

<平成30年度 一般社団法人 日本蕎麦協会奨励賞>

農事組合法人ふる里妙高 新潟県妙高市